

現役合格への 軌跡

2025 年度 阪大世界史 第2問〔文学部・外国語学部共通 問題編〕

今回は 2025 年度の阪大の第1問に続き、第2問を解説したいと思います。この問題は第1問と同じく文学部と外国語学部の共通問題です。ぜひともチャレンジしてみてください。なお、本原稿における解答や解説は、大阪大学が公表したものではなく、研伸館が独自で作成したものになります。

歴史総合・世界史探究問題

(Ⅱ) 次の文章は、修学旅行で訪れたトルコのイスタンブールに関する、高校三年生 A さんと担任 B 先生の会話文である。これを読み、下の問い(問1～問4)に答えなさい。

A さん：イスタンブールで一番印象に残ったのは、トプカプ宮殿に展示されていた陶磁器のコレクションです。14 世紀中葉に制作された染付(青花)をはじめ、中国の陶磁器はどれも美しく、圧巻でした。

B 先生：中国の白磁に西方のコバルト顔料で絵付けを行う染付(青花)は、①モンゴル帝国下におけるユーラシアの東西交流を象徴する文物ですね。ちなみにトプカプ宮殿の陶磁器コレクションには、中国以外の国で生産された陶磁器も含まれていました。A さんは気が付きましたか？

A さん：はい、コレクションにはベトナムで生産された陶磁器もありました。陶磁器に記された銘文から、この作品は 1450 年頃、北部ベトナムで製造されたことが分かります。

B 先生：②陶磁器の出土状況が示すところによると、15 世紀の東南アジアでは中国産陶磁器の輸入が顕著に減少し、タイやベトナムで生産された陶磁器の流通が拡大したようです。このほかトプカプ宮殿の陶磁コレクションには、日本製の磁器もみられましたね。

A さん：有田焼の名品が多数展示されていました。③九州で国産化された日本の磁器は、17 世紀後半に各地へ輸出され始めるんですね。

B 先生：陶磁器を含め、江戸時代には従来輸入に頼ってきた商品の国産化が進展しました。④そうした商品の一部は、19 世紀後半に日本が開港した際、重要な輸出品を構成することとなります。

問 1 下線部①に関連し、モンゴル帝国時代の東西交流に関する記述として適切なものを次のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

- ア モンゴル帝国下のユーラシアでは、遠距離交易からムスリム商人が排除された。
- イ 郭守敬はイスラーム天文学の知識を活かし、高精度の太陽暦である授時暦を作成した。
- ウ イエズス会の宣教師が西洋の科学技術を中国に伝えた。
- エ 海上進出を図る元は、南方で陳朝・チャンパー王国・ジャワ島などに遠征軍を送った。

問 2 下線部②の現象の背後にあったと考えられる要因を説明しなさい(50 字程度)。

問 3 下線部③について、日本の磁器生産・輸出をめぐるこうした動きの歴史的背景を、次の語句を使い論じなさい(150 字程度)。

遷界令

朝鮮半島

問 4 下線部④に関連する次の表 1 は、1873～1888 年の日本から世界各地への陶磁器輸出額の推移を示したものである。この表から読み取れる輸出額の変化とその背景として適切なものを、次のア～エから一つ選んで解答欄に記号を記しなさい。

- ア 対中輸出額は 1880 年代に増加傾向を見せ始めるが、その背景として、義和団戦争により中国の陶磁器生産が混乱したことを指摘できる。
- イ 1879 年を境にイギリスへの輸出額が激増したのは、日英同盟の締結によって両国の貿易関係が緊密化したためである。
- ウ 1870 年代後半から欧米への輸出額が拡大している背景としては、万国博覧会を通じた日本の物産や文化に関する情報の浸透が考えられる。
- エ アメリカ向け輸出額が 1880 年代の後半に顕著な伸びを見せるのは、パナマ運河の開通により海運の規模が拡大したためである。

表1 陶磁器輸出統計(1873-88年) (単位=千円)

年	中 国	イギリス	ドイツ	フランス	アメリカ
1873	43	38	0	10	6
1874	33	29	1	9	10
1875	56	29	0	6	12
1876	31	18	0	5	6
1877	22	45	1	24	37
1878	25	55	1	39	51
1879	24	104	7	68	133
1880	73	130	(データなし)	78	167
1881	72	201	7	113	282
1882	76	165	11	125	166
1883	102	165	13	81	118
1884	103	155	25	76	125
1885	170	203	27	124	127
1886	336	225	33	123	209
1887	385	259	52	181	295
1888	323	264	77	148	326

宮地英敏『近代日本の陶磁器業』名古屋大学出版会、附表1より作成(一部改変)

2025 年度 阪大世界史 第2問〔解答解説編〕

【解答】

問1 エ

問2 洪武帝の政策であった海禁を、靖難の変で即位した永楽帝以降の皇帝も継続し、民間商人による貿易が禁じられたため。(54字)

問3 16世紀末の豊臣秀吉の出兵に際して朝鮮半島から多数の陶工が連行され、九州各地で磁器が発達して、国産化が進んだ。17世紀に入って明に代わった清は、台湾の鄭成功一族を抑えるために遷界令を発して沿岸地域の貿易を禁止した。そのため、周辺国は中国からの陶磁器輸入が困難となり、代替品としての日本の陶磁器が輸出された。(153字)

問4 ウ

【解説】

問 1

論述問題ではなく、共通テストや私立大学で出題される文章正誤問題です。モンゴル帝国時代の東西交流に関する記述として適切なものを選んでいく問題ですが、

ア モンゴル帝国下のユーラシアでは、遠距離交易から~~ムスリム商人が排除された~~。

→主に遠距離商人として活躍したのはムスリム商人であった。

イ 郭守敬はイスラーム天文学の知識を活かし、高精度の~~太陽暦~~である授時暦を作成した。

→太陽暦ではなく、太陰暦。

ウ ~~イエズス会の宣教師が西洋の科学技術を中国に伝えた~~。

→イエズス会の結成は 16 世紀。モンゴル帝国時代ではなく、明・清帝国時代。

エ 海上進出を図る元は、南方で陳朝・チャンパー王国・ジャワ島などに遠征軍を送った。

→正文

となります。

問 2

下線部②「15 世紀の東南アジアでは中国産陶磁器の輸入が顕著に減少した」の現象の背後にあったと考えられる要因を説明する問題です。

なぜ 15 世紀の東南アジアでは中国産陶磁器の輸入が顕著に減少したのか。それは 15 世紀の中国、明初期の交易に原因が考えられます。15 世紀の明朝は靖難の役（1399 年）で即位した永楽帝から土木の変（1449 年）以後、約 50 年の歴史となります。この時代、明では海禁が行われ、私貿易は禁止されました。このため、海上では倭寇が活躍し、内陸では貿易の拡大を望むモンゴルとの対立から、戦争となり、皇帝が捕虜となる土木の変（1449 年）が起こります。しかしそれでも明は海禁をやめず、海禁が緩和されるのは 16 世紀になってからでした。

問 3

下線部③「九州で国産化された日本の磁器は、17 世紀後半に各地へ輸出され始める」、という日本の磁器生産・輸出をめぐるこうした動きの歴史的背景を論じなさい、という問題です。

与えられた単語は“遷界令”と“朝鮮半島”です。まず、「なぜ日本の陶磁器は九州で国産化されたのか」です。17 世紀後半に各地へ輸出され始めるので、その前の時代に「国産化」されることとなりました。では 17 世紀後半より前、何があったか。ここでのキーワードは“朝鮮半島”となります。16 世紀末の豊臣秀吉の出兵に際して朝鮮半島から多数の陶工が連行され、九州各地で磁器が発達し、国産化が進んだから、となります。また、「なぜ 17 世紀後半に日本の磁器は各地へ輸出され始めたのか」

現役合格への 軌跡

です。このキーワードは“遷界令”（1661 年）です。遷界令は清が台湾の鄭成功一族を抑えるため、東南沿岸部の住民を内地に移住させ、海上での貿易を禁止する海禁政策を行いました。強制移住と貿易禁止で鄭成功一族の経済活動に打撃を与えることがねらいでした。このため、周辺国は中国の陶磁器輸入が困難となり、代替品として有田焼などの日本の陶磁器が輸入されるようになりました。

問 4

残念ながら、この問題はグラフ読み取り問題に見えて、問 1 のような文章正誤問題になっています。グラフを見ずに回答できる問題です。

ア 対中輸出額は 1880 年代に増加傾向を見せ始めるが、その背景として、義和団戦争により中国の陶磁器生産が混乱したことを指摘できる。

→義和団戦争は 1900 年です。

イ 1879 年を境にイギリスへの輸出額が激増したのは、日英同盟の締結によって両国の貿易関係が緊密化したためである。

→日英同盟は 1902 年に締結されました。

ウ 1870 年代後半から欧米への輸出額が拡大している背景としては、万国博覧会を通じた日本の物産や文化に関する情報の浸透が考えられる。

→正文

エ アメリカ向け輸出額が 1880 年代の後半に顕著な伸びを見せるのは、パナマ運河の開通により海運の規模が拡大したためである。

→パナマ運河の開通は 1914 年です。